

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100833		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームよつば		
所在地	前橋市下新田町315		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人としての尊厳を大切に考え、丁寧な言葉遣い、対応を心掛け一人ひとりの個性や性格の理解に努め、利用者様が生き生きとした生活が送れるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内を拝見したところ、利用者の様子は背筋が伸び、穏やかなお顔で迎えていただいた。外部からの訪問者に慣れている様子で入居前の生活の様子が推察でき、穏やかな佇まいから、日頃大切に支援されているとお見受けした。毎日の食事作りに関しては職員が利用者の要望を取り入れた献立を考え、近所のスーパーでの材料の調達から調理までの一連の作業を行い、職員も利用者と同じものを食べている。グループホームの特徴である食事が楽しくなる支援を実践している。また、共用空間のホワイトボードには当日の献立や日課、職員の勤務表、利用者の作品が掲示され、食時の内容やその日の予定が利用者に情報提供として示されていることに尊厳を大切に考えていることが理解できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール・事務所に掲示し、職員会議の中で唱和し理念の共有に取り組んでいる。	ホーム長は理念に沿って、支援にあたる場合には利用者のその時の気持ちを汲み取ることを指導している。会議や個別で共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報で地域との情報共有を行っている。	回覧板が回ってきており、イベント等の地域情報は得られている。地域のスーパーやドラッグストアに出かけている。	住宅地に立地しているため、イベント等を通して地域住民とのつながりを強化してはいかかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料を地域の方々へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年7月から対面で推進会議実施しご家族様、前橋市役所介護保険課の方からご意見を頂いている。	コロナ禍では書面開催であった。7月より対面で再開している。家族・区長・民生委員・行政が参加し、現況・活動等が報告され、ハザード情報等に沿った話し合いの中で家族からも活発に意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の他、法人を通じても市町村とは関わりを持つようにしており実践に活かしている。	法人の担当者が窓口となり、行政担当者への報告、相談を通して連携を図っている。認定調査の立会いをしているが、介護保険の更新は家族が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束をしない介護を行っている。	玄関は電子錠でインターホンが鳴った時に開錠している。電子錠のため利用者は開錠できない。スピーチロックに関しては職員同志で気づき合い、勉強会を開いている”	避難経路にあたる廊下の出入り口の施錠について、非常時にはすぐに開錠できるよう工夫してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで学ぶ機会を持ち、虐待のないホームになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業サービスや成年後見人制度を活かした支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時本人・ご家族に重要事項説明書・利用契約書を十分に説明を行い、質問にも丁寧に答え同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は、速やかに対応するように努めている。ご家族来苑時職員から声をかけて意見・要望を聞くようにしている。	家族からは利用料持参者にはその時に、また面会時や何かあった時に意見や要望がないか尋ねている。本人からは誕生日や日常的に職員が聞いて共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見・提案を聞いている。職員会議の中でも意見・提案を聞き反映させている。	月に1度の職員会議に出勤者と休日の職員もなるべく出てもらい、意見を聞いている。カンファレンスや申し送り時に意見が出ている。ホーム長あての「職員ノート」があり意見を集めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう環境の整備に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修・介護職員初任者研修・介護福祉実務者研修を受けている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、本人からの話しを十分に傾聴し、性格などの把握を行い、安心して共同生活を送る事が出来る様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご家族から不安や要望等の思いを伺う機会を持ち、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め適切な対応が行えるように努めている。本人・ご家族の意見を聞く事を大事にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の人格を尊重し、より良い関係づくりに努めている。職員は共に生活するという気持ちで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や電話等で連絡・報告しながら情報交換をし、良好な関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時感染対策を十分に行い、関係が途切れないよう支援していきたいと考えている。	利用者が洗濯物を畳んだり、タンスにしまうこと、手紙のやり取り、新聞・雑誌を読んでいる。また、家族との外出や衣替え、親戚との電話、家事の手伝い・草むしり等、役割として人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声を掛け橋渡し役に努めている。また仲の良い利用者から声を掛けて頂き、笑顔が見られる関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族より希望を伺いその人らしい生活が送れるように支援し、日常生活の言葉や仕草から情報を集め思いを汲み取れるよう努めている。	ケアマネジャーが週2回訪問しており、利用者とは直接会話したり、ケア記録等で意向確認を行っている。家族からは、利用料支払い時に希望等確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人・ご家族から詳しく伺い日常生活でも拾い集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを活用し、日常の会話や仕草から、それぞれの思いを感じ取れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが本人・ご家族からの要望・意見を伺い、介護計画に反映し毎月の職員会議・カンファレンスで気づき・意見を出し合っている。	モニタリングは職員・利用者・ケアマネジャーが月1回実施している。介護計画については、アセスメント及び担当者会議を通して定期的に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日実施し、職員会議等で意見交換し、実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族から希望を聞き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様・民生委員様・消防署等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診・緊急時の往診・相談等の支援を受けている。	契約時に事業所の協力医か入居前のかかりつけ医を選択できることや協力医の往診は月2回、他科は家族対応を依頼していることを説明している。希望により歯科の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師の週1回の健康チェック、緊急時来苑・相談・配薬セット管理の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・ご家族の希望を伺い、病院と連携を取り、早期退院に向け働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が方針を共有している。 今後、ご家族様より希望があれば主治医と相談し対応していく予定。	看取りの方針があり、家族の意向と主治医の判断によって実施することになっている。実際に2名の看取りを職員のチームワークで支援した。コロナ禍であり、通常は窓越し面会だったが、居室に入室でき、家族の希望が叶った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置・緊急マニュアル作成し実践に役立つように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の立ち合いによる避難訓練と、毎月自主避難訓練を行っている。	事業所の立地はハザードマップでは水害地域に指定されている。法定の火災総合訓練の他に月に1回火災・水害想定自主訓練を実施している。備蓄として米・水・缶詰等3日分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣い・対応を心掛けている。一人ひとりの個性や性格の理解に努めている。	呼称はさん付けとし、利用者には支援に入るときに声を掛け支援の内容を伝え、どうするか聞いている。異性介助になるときもあり、自分でいかどうかも伺っている。利用者同士の相性にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志表示を持つケアに努めている。利用者によっては、選択しやすいように2択にし自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日ご本人が洋服を選びおしゃれを楽しんで頂いてます。利用者によっては、選択しやすいように2択にし決定出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や旬の食材を献立に取り入れている。コロナ感染対策の為準備や一緒に食事はしていない。	食材は近隣のスーパーで買い、手作りの食事を提供し、誕生日には希望の献立を聞いている。行事食や出前を楽しみ、開所記念日には利用者と職員で祝った。10時のお茶は好みの物を聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況を把握し、必要な栄養・水分量をその人に合った方法で無理なく摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、毎晩義歯消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かし、さりげなくトイレ誘導をしている。	トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を参考に声を掛け誘導している。夜間は状態に応じての誘導や起こさないでほしい等の希望で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に合わせて適度な運動を行っている。乳製品・食物繊維・水分等多めに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に沿って入浴して頂いている。介助する職員が声掛けを行っている。	基本週2回月曜～日曜日の午前と午後声を掛け入浴している。入浴が好きではない人にはシャワー浴や清拭をしている。入浴後の肌の手入れや着替え一式を入れたボックスを自分で用意している人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その方のペースに合わせて安心して過ごせるよう支援している。体調に合わせて日中でも静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が仕分けたものを確認し、一人ひとりに合わせた服薬の支援をしている。薬剤師からの注意点やお薬の内容も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、洗濯物たたみ、モップ掛け、カーテン開閉等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行い個別にてドライブ等に出かけている。散歩(ウッドデッキ)はほぼ毎日出ている。希望があれば2回行く日もある。	コロナ禍ではあるが、外出する機会が多い。家に帰宅したり、家族との外出、日常的には散歩や草むしり、ウッドデッキで外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族の了承のもと、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたり手紙のやり取りができる支援を行っている。オンライン面会を導入し、実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で心地よく過ごしていただけるよう、利用者と季節の花を植えたり、季節の飾り付けをしている。	法人のコロナ対策による換気を行い、不快な臭いも無い。ホワイトボードには「今日の予定」「食事の献立」等、情報提供している。テレビ・テーブル・椅子が置かれ、居室からも出られる長いベランダがあり、毎日歩いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で好きな時にテレビを観たり、ラジオを聞いたり、お茶を飲みながら新聞を読んだりする空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や思い出の品物を持ち込み使用している。	本人の希望で窓が少し開けられ、家族と一緒に部屋作りがされている。ベッドとエアコン、寝具・ゴミ箱が用意されている。化粧ケースやテレビ、ひざ掛けが持ち込まれ、家族の写真等が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・風呂場等バリアフリーになっている。		